



山田武麿先生を偲んで

山田先生は大正3年12月11日に生まれ、昭和61年10月29日に没せられた。現在の平均寿命からすれば早きにすぎ、誠に残念であり、深く哀悼の意を表する。先生の学生時代は昭和10年代であった。当時に於いても国際化の関心が高まったのであろう。歴史学界でも対外交渉史が研究テーマとなり、先生も大学卒論で〈キリストンと商人〉の問題について検討された。

戦時中には兵役に入り、好むと好まざるとにかくわらず陸軍予備士官学校に学び、卒業して甲幹の区隊長という関東軍経理学校教官になり、また大隊副官という脚光あびる軍隊経験を送った。終戦後は群馬大学教授、教養部長となり、続いて群馬県立女子大学教授となり、群大と女子大の両学の名誉教授になられた。先生は陽のあたる道を歩んだ経歴のもち主と言うことができよう。

これらは先生の素質のなさしめたところであろう。テレビが街頭に現われた昭和30年から家庭に普及し始める時に、いち早く取入れた。新しいものを敏感に感じとっていた。先生の研究テーマは群馬県にとっても重要な問題を追求しておられた。これらは最初に解明せられなければならないものばかりである。養蚕製糸業という日本資本主義形成のトップ産業を究明し、商品流通を論じ、利根川水運について早い機会に注目して検討した。

先生の論文は必ずしも多くはない。しかし、才能のひらめきを感じとることができよう。前橋市史の近世史も先生の業績により明らかにすることができたものである。

前橋市文化財調査委員 丸山 知良